



第103回
全国高等学校ラグビーフットボール大会
東京都予選

～ルール・安全対策～

—
2023.9.2

高体連ラグビー専門部

レフリース委員会



TOPICS

*世界的試験実施ルールの確認
【ハイタックルについて】*

タックルの高さに関する試験的实施ルール

- ・ 胸骨の位置へのタックルはハイタックルでPKとする。
- ・ 最初のコンタクトの位置は胸骨より下であったが、ずり上がって最終的にコンタクトの位置が胸骨になった場合、PKとなる可能性がある。
- ・ 複数でタックルする際は、1stタックラー同様に胸骨より下へタックルしなければならない。



試験的実施ルール適用の背景

ラグビーをする上で大切な事

チーム・選手・レフリー
危険がなく安全にプレー

危険性と安全性の重視

プレイヤーの安全を守る為に、

- ① コーチは正しいスキルを教える、
- ② プレイヤーは正しいテクニックでプレーする
- ③ レフリーは危険なプレーを適切に判定する

危険性と安全性の考え方

* 動的vs静的

相手に対して加速している＝強い力が加わる

立ち止まって静止している＝強い力は加わらない

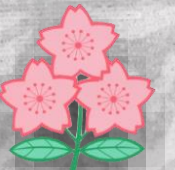
* 高い姿勢vs低い姿勢

頭が高い位置にある＝頭部コンタクトの可能性が高い

頭が低い位置にある＝頭部コンタクトの可能性が低い

相手に対して加速して高い姿勢でコンタクトしたが、相手との力の関係で結果的にタックラーが負けた(受け止めた)形になった際は危険なプレーと判断する

これらのキーワードを用いて、危険か安全かの判断/判定を行う



胸骨より上へのコンタクト (タックル)のキーワード

- ①膝を折らず
 - ②腰も落とさず
- } 高い姿勢

- ③加速からの強い力(強い圧力)

※コンタクトの勝ち負けではない。

胸骨より低い位置へのタックルが求められる。



—
PK

胸骨より低い位置へのWタックルは認められ、プレーオン(PO)である。



PO

(タックラー2人ともが胸骨より低い)



PK

(手前のプレーヤーは胸骨より上に力を加えている)

胸骨より低い位置へタックル・Wタックルを試みたが、ボールキャリアーが低くなり、胸骨の位置へコンタクトした場合はプレーオンとなる。



PO

(ボールキャリアーが低くなったことによるコンタクト)

ボールキャリアーの上体に対して力を加えることなく、受け止める、引き倒すなどの行為は危険性が無ければプレーオンとなる。



PO
(上体へ力を加えず、
受け止めている)



PO
(上体へ力を加えず、
引き倒している)



PK
(2人目は胸骨より上
に力を加えている)

胸骨より上へのコンタクトを
伴わないボールへの
コンテスト(リップ)は認められる。



PO

背後・横からの場合でも、胸
骨より上へのコンタクトは
ハイタックルとしてPKとなる。



PK

ラインアウトにおいて、相手頭頸部への
コンタクトが発生しない(危険度が無い)
サックは認められる。



胸骨より上へのコンタクト (タックル)のキーワード

- ①膝を折らず
 - ②腰も落とさず
- } 高い姿勢

- ③加速からの強い力(強い圧力)

※コンタクトの勝ち負けではない。

危険性と安全性の考え方

Clear & obvious

プレーヤーは「**クリアーで明確に安全にプレー**しましょう」

レフリーは「**クリアーで明確な危険な行為に罰**を課しましょう」





ご清聴ありがとうございました。